キャラクター名
日向　御影(ひゅうが　みかげ)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ブラックドッグ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル	ブラム＝ストーカー	年齢	16	性別	女
覚醒	死	衝動	吸血	初期侵食率	43 %
出自	疎まれた子	経験	平凡への反発	邂逅	保護

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	1	0	1			2

HP	31
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：ピアノ	1		知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
影の武具：赫き剣	白兵	5r+6	0	+7		
影：赫き剣+破壊の血	白兵	5r+6	5	+19		100未満
影：赫き剣+破壊の血	白兵	5r+6	5	+22		100以上

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：手配師	
コネ：噂好きの友人	
コネ：UGN幹部	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
遺産継承者：蛇王の外套	P	N		
護崎 時雨	P 好奇心	N 食傷		
明澄 香織	P 尽力	N 劣等感		
UGN水杜支部	P 幸福感	N 不安		
水鏡 牡丹	P 連帯感	N 不快感		
霧島 基	P 尊敬	N 不安		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：エグザイル	3	2	メジャー					
効果：C値-[Lv](下限7)								
オールレンジ	3	2	メジャー	武器		対決		
効果：判定ダイス+[Lv]個								
影の武具：赫き剣	4	3	マイナー	至近	自身	自動	Dロイス	
効果：武器作成								
破壊の血	4	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果：同上								
イオノクラフト	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果：飛行状態で戦闘移動、距離+[Lv*2]m								
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器		対決	80↑	
効果：装甲、ガード無視、シナリオ[Lv]回								
タッピング&オンエア	★							
効果：								
異形の歩み	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【経歴】
戸籍上は、水杜町の一般的な夫婦の間に生まれた娘だが、実際は妻と不倫相手との間に生まれた、という複雑な出生の持ち主
紆余曲折を経て、妻の家庭に夫婦の娘として引き取られるが、その扱いは決して良いものとは言えず、暴力こそ振るわれないもののネグレクトと称して良いものであった
やがて彼女を産んだ母が亡くなると、父はすぐに別の女性と付き合い始め、彼女に対する扱いはさらに悪くなっていく
命の危険すら感じた彼女は家を飛び出し、その先で誤って川に落ちてしまう
当時10歳とは言え、ネグレクトにより栄養失調気味な少女では自力で岸にたどり着くことはできず、ちょうど辺りに人もいない時の話だった
当然の帰結として彼女は死に、何の因果かオーヴァードとして蘇った
死んだはずなのに生きている、得体の知れない力、帰ったら怒られる、色々なことが重なって動けなくなっていた彼女を保護したのが当時水杜町でエージェントとして働いていた明澄香織だった
彼女に保護されたのち、支部にて十分な訓練を受け、現在はチルドレンとして活動している

【人物】
誰にでも丁寧に接し、内心を隠すのが上手いが、そもそも余り人とコミュニケーションを取るのが上手ではない
その為、大半の人にはいつも微笑を浮かべ、敬語で話し、当たり障りのない対応をする、という浅い付き合い方しかできない
親しい人物が相手でも敬語は外れないが、内心をかなりストレートに口に出すので、慇懃無礼みたいになっている
大半の人間には無関心で、チルドレンとしての仕事も生きる糧を得るため、と割り切ってやっている節がある
反面、親しい人物には人並み以上に情が深く、感情的になりがち
本人は感情的に動くのを嫌っており、常に論理的に生きていきたいと思っている
後述の遺産により、徐々に冷徹な面が増えつつあるが、それでもまだ彼女の理想には遠い模様
上記のような経歴から、普通や平凡、日常といった概念に感情的な反発がある
世間が日常や平凡として流している日々の裏で自分は死んだ、他にもそういう人がいるはず、じゃあ平凡とか日常って一体何なのだろうか？という思いを抱えて